

令和七年度のお盆をお迎えするにあたって

お盆は、お彼岸と並ぶ先祖供養の法会ほうえです。「盂蘭盆会うらぼんえ」とも言います。もともと、ブツダの弟子目蓮尊者もくれんそんじやが、餓鬼道に堕ちた母親の苦しみを救った由来を説いた「仏説盂蘭盆經ぶつせつうらぼんきやう」の教えに拠って始められました。日本では、伝わってきた仏教思想と伝統的な宗教儀礼が結びつき、現在のお盆の習慣が出来たと考えられます。

お盆を迎えるにあたっては、仏壇やお墓を清掃し、仏壇前に精霊棚しょうりようだなをつくります。また迎え火を焚き、ご先祖様をお迎えします。精霊棚には苙むしろを敷いて位牌を安置し、果物や菓子、茶湯、霊膳その他種々の供物を供えます。また盆中は提灯をつけておきます。この期間中ご先祖様は、私たちと共に生活しているとされています。盆が終われば、送り火を焚いて、ご先祖様を送り出します。尚、しきたりは土地によって違いがあります。

盂蘭盆会の法要は「施餓鬼会せがきえ」という形をとっています。その本来の意味は、餓鬼の世界に堕ちたものに広く飲物や食物を供養することです。ご先祖様のみならず広く有縁の精霊を供養することによって多くの功德を積む大切な機会でもあります。

今年七月十三日(日曜日)に本堂にて行います(オンラインも同時中継)。法要時にご供養を致します卒塔婆そとうば(一基三五〇〇円)受付しております。卒塔婆はお釈迦様のお骨を収めた塔の形をかたどり、供養する方への報恩感謝、先祖の冥福を祈るといった意味があるとされております。